

雲りの青空

福井の女性キャリア相談記

代 幸 松 岡

14

○さんは39歳の専業主婦で、夫と子ども3人家族。子育てに少し余裕が出たのを機に再就職を考え始めた。でも、どこからスタートしてよいか、分からなかった。

再就職したいと思った理由を、○さんはこう話した。「子どもはまだ小さいけれど、将来お金が必要になってくるし、今のうちから少しでも働こうかと思って」。さらに労働条件や就職先に関する希望も「子どもが帰ってくる時間には家に居てやりたいから9時から14時までの勤務で、いろんな行事がある土日は休みが欲しい」「前に事務を少しやっていたので、今回も事務がいいかな？」とどんどん出てきた。

でもその中には、なぜか給料に関する希望はなかった。不思議に思い、尋ねると「そりゃ、お給料は多いに越したことはないですけど、そこそこもつえれば」と答える○さん。将来への蓄えを求めるなら大事なことはすなわに...。「そんざいしつきのわんざい...」1年

再就職を目指す

役に立ち認められたい

後にはどのくらいためたんですか？」と聞くと、「ん...」○さんは答えに窮してしまった。まだはっきり決まっていないだけ？ もしかしたら、再就職したい理由が他にあるの？ ひとまず○さんが望む再就職の姿を聞いてみよう。

重視してパート職ばかりを選んできました。どれも大した仕事ではなかったけれど、『ありがと』と言われるたびに私でも役に立っていることが喜びでしたし、楽しかった」とにこやかな表情で話す○さん。さらにかみしめるように、「家では私が家事を全部しているんで、私がいなくなったら家族は困るはずですよ。家庭では大事な存在だと思ってくれど、何か物足りないんです。そう話す○さんに私は、「家の中だけでなく、別の世界でも自分の存在を認めてほしいんですよ」と、私がやる気すまね」と聞いた。「そうかもしれません」とつぶやく○さん。その声は、奥に確認しているようだった。初めて気付いた気持ちなんだろう。「じゃあ、希望する条件がクリアできて、かつ喜びを得られる仕事を探すことにしましょうよ」と就職活動の一步をスタートさせた。

○さんは「不況で失業者も多いのに、私、わがままじゃないですか？」と不安げに聞いてきた。「長く楽しく働くために、まずは○さんの希望がかなうところにアタックしましょうよ。譲れる部分が多いのに、私、わがままじゃないですか？」と不安げに聞いてきた。みんなそう思っているのかもしれない。「笑うなんてとんでもない！ どんな人だって、どんな仕事をしてたって、いろんなことで悩むものです。みんな同じなんです。私ももちろん私だって」と私は話した。そう、みんな同じ。違うのは思い切って一歩前に進めるかどうか。それで人生って変わるものなのだと思います。

いた後で「転職を4回さく、別の世界でも自分の存在を認めてほしいんですよ」と、私がやる気すまね」と聞いた。「そうかもしれません」とつぶやく○さん。その声は、奥に確認しているようだった。初めて気付いた気持ちなんだろう。「じゃあ、希望する条件がクリアできて、かつ喜びを得られる仕事を探すことにしましょうよ」と就職活動の一步をスタートさせた。

奥に確認しているようだった。初めて気付いた気持ちなんだろう。「じゃあ、希望する条件がクリアできて、かつ喜びを得られる仕事を探すことにしましょうよ」と就職活動の一步をスタートさせた。



イラスト・多田くにお

(福井新聞社提供)